

# 自己有用感グロウアップナビ

～認め合い活動と児童同士の相互評価の蓄積～



## 【自己有用感とは？】

- ◆他者と関わる中で得られる  
「他者のために役に立った」や  
「他者から認められた」という感覚。
- ◆相手の存在なしには生まれてくることのない感覚の一つ。



# 自己有用感グロウアップナビ <概要>



## 【自己有用感グロウアップナビを作成した思い】

- ◆児童の自己有用感を高めることをねらい、学校生活における教師の具体的な支援方法のよりどころとなるように。
- ◆児童が、自己有用感の高まりを感じ、他の児童と認め合うことの心地よさを感じながら、学級内の他の児童と進んで関わろうとする気持ちを抱けるように。



## 【自己有用感グロウアップナビの特徴】

- ◆「自己有用感グロウアップナビ」(PDF形式)を、教師の端末にダウンロードしておく、いつでも活用できる。
- ◆目次スライドや各ページには、リンクが張ってあるので、下線が付いている文章をクリックすることにより、詳細のページが表示されるようになっている。
- ◆セルフチェックシートは、エクセル形式で作成しているため、「自己有用感グロウアップナビ」と同じフォルダに保存しておくことで、エクセルシートへのリンクが機能するようになっている。

## 【児童の自己有用感が高まると・・・】

- ◆他の児童のよさやがんばりをすすんで見付けて、相手を承認しようとする児童を育成できる。
- ◆自分にできることを見付け、学級や他の児童のために意欲的に取り組む児童を育成できる。
- ◆他の児童と進んで関わりをもとうとする児童を育成できる。
- ◆教師と児童、児童と児童の人間関係がよりよくなる。





## 教師の関わり方編

### ◆関わり方についての資料集

#### グッドチョイス①

児童が他者や学級に貢献できることに気付けるようにするために、教師が児童に「関わる方法」を四つの段階で提示

教師の関わり方編 ～グッドチョイス①（しかける）～  
児童等「しかける」→貢献できることを見付けさせる

児童が他者や学級に貢献できることに気付けるようにするために、教師が児童に「関わる方法」を四つの段階で提示

1. 児童が他者や学級に貢献できることに気付けるようにするために、教師が児童に「関わる方法」を四つの段階で提示

2. 児童が他者や学級に貢献できることに気付けるようにするために、教師が児童に「関わる方法」を四つの段階で提示

3. 児童が他者や学級に貢献できることに気付けるようにするために、教師が児童に「関わる方法」を四つの段階で提示

4. 児童が他者や学級に貢献できることに気付けるようにするために、教師が児童に「関わる方法」を四つの段階で提示

#### ポジティブワード

児童に承認されている実感を促すための、教師による肯定的な言葉掛けを例示

教師の関わり方編 ～ポジティブワード（具体的場面）～  
児童等「褒める」「認める」→承認されている実感を促す

児童が他者や学級に貢献できることに気付けるようにするために、教師が児童に「関わる方法」を四つの段階で提示

1. 児童が他者や学級に貢献できることに気付けるようにするために、教師が児童に「関わる方法」を四つの段階で提示

2. 児童が他者や学級に貢献できることに気付けるようにするために、教師が児童に「関わる方法」を四つの段階で提示

3. 児童が他者や学級に貢献できることに気付けるようにするために、教師が児童に「関わる方法」を四つの段階で提示

4. 児童が他者や学級に貢献できることに気付けるようにするために、教師が児童に「関わる方法」を四つの段階で提示

#### グッドチョイス②

児童が他者や学級に貢献しようとする姿を広めるために、その姿を教師が学級全体に「紹介する方法」を四つの状態で提示

教師の関わり方編 ～グッドチョイス②（紹介する）～  
学級全体に「紹介する」→貢献しようとする姿を広める

児童が他者や学級に貢献できることに気付けるようにするために、教師が児童に「関わる方法」を四つの段階で提示

1. 児童が他者や学級に貢献できることに気付けるようにするために、教師が児童に「関わる方法」を四つの段階で提示

2. 児童が他者や学級に貢献できることに気付けるようにするために、教師が児童に「関わる方法」を四つの段階で提示

3. 児童が他者や学級に貢献できることに気付けるようにするために、教師が児童に「関わる方法」を四つの段階で提示

4. 児童が他者や学級に貢献できることに気付けるようにするために、教師が児童に「関わる方法」を四つの段階で提示

# 自己有用感 グロウアップナビ ＜構成＞

## ◆グッドチョイス①の活用

教師が  
児童を認める

児童が  
自分の  
よさががんばりに  
気付く

本時に  
向かう活動

本時の活動

## ◆グッドチョイス②の活用

児童が  
他の児童の  
よさががんばりに  
気付く

貢献と承認の  
思いの高まり

実践する期間

児童と  
児童が  
それぞれの  
よさががんばりを  
認め合う

日常に  
つなげる活動

自己有用感の高まりを感じる児童



## 学級活動編

### ◆学級活動指導事例集

#### 発達段階ごとの学習指導案

低: みんなでなかよく!  
中: 目指せ! 楽しいクラス  
高: 学級カパワーアップ大作戦

学級活動指導案 (中学)	学級活動指導案 (小学)
1. 学級活動の目的 2. 学級活動の目標 3. 学級活動の計画 4. 学級活動の実施 5. 学級活動の評価	1. 学級活動の目的 2. 学級活動の目標 3. 学級活動の計画 4. 学級活動の実施 5. 学級活動の評価

#### デジタル教材 (背景画像)

PDFファイルを画像として端末に取り込み活用できる!

楽しいクラス

#### ワークシート

目指せ! 楽しいクラス!  
～「お役立ち係」をやってみよう～

PDFファイルのため、そのまま印刷して使える!

#### 提示資料

クラスがもっと楽しくなるために!

「お役立ち係」とは!

PDFファイルのため、そのまま印刷して使える!





# 自己有用感グロウアップナビ <目次>



## 教師の関わり方編



## 学級活動編

### ポジティブワード

#### 具体的場面

学校生活を六つの場面に分け、それぞれの場面で見られる児童の姿を認める言葉掛けを示している。

#### 言葉掛け

肯定的な表現を六つの視点に分け、それぞれの視点について教師の思いを児童に伝える言葉掛けを示している。

「褒める」「認める」で  
児童一人一人に  
承認されている実感を促そう！



貢献

自己有用感  
の高まり

承認



### グッドチョイス

#### ① しかける

児童が貢献できることに気付けるようにするために教師が児童に「関わる方法」を四つの段階で提示。

#### ② 紹介する

児童が貢献しようとする姿を広めるために、その姿を教師が学級全体に「紹介する方法」を四つの状態で提示。

「しかける」「紹介する」で  
貢献できることに気付かせ  
貢献の姿を広めよう！

(補助資料)

#### セルフチェックシート

教師が日々の児童との関わりを客観的に捉え、次の支援に結び付けるための自己評価ができるシート。

### 低学年

「みんなで なかよく！」

#### 学習指導案

#### デジタル教材(背景画像)

#### ワークシート

#### 提示資料

### 中学年

「目指せ！楽しいクラス」

#### 学習指導案

#### デジタル教材(背景画像)

#### ワークシート

#### 提示資料

### 高学年

「学級力パワーアップ大作戦」

#### 学習指導案

#### デジタル教材(背景画像)

#### ワークシート

#### 提示資料



## 教師の関わり方編

**ポジティブワード**

**具体的場面**

**言葉掛け**

**グッドチョイス**

**① しかける**

**② 紹介する**

[\*\*目次に戻る\*\*](#)

## 登校中

「よく来たね、元気に来たね」  
「気持ちのいいあいさつだね」  
「みんなにあいさつしているね」  
「周りをよく見て歩いているね」  
「小さい子たちの面倒をみるのがじょうずだね」  
「真っ直ぐ歩いて来れたんだね」  
「安全に登校できたね」  
「靴がしっかりそろっているね」  
「元気になる笑顔だね」

## 休み時間

「外で元気に遊んできたね」  
「道具の片付けを最後までしてくれたんだね」  
「授業の準備を忘れずにしてから遊んでいたね」  
「(時間やルール)をしっかり守っていたね」  
「□□さんを誘って(声をかけて)くれてありがとう」  
「譲ってあげて、えらかったね」  
「友達と楽しく～したんだね」

## 授業中

「姿勢がいいね」  
「たくさん発表していたね」  
「チャーム着席ができているね」  
「手の挙げ方がきれいだなあ」  
「〇〇さんらしい発言だね」  
「工夫して解いているね」  
「分かりやすい発表だよ」  
「集中して取り組んでいるね」  
「いろんな考えをしているね」  
「見やすくなるようにエして書いているね」

## 児童のよさ 児童のがんばり

日常の学校生活の  
さまざまな場面で  
見取れた  
その時に！

「みんなが楽しくなるように、～を考えてくれたね」  
「□□さんのことを、自分から手伝ってくれたんだね」  
「いいアイデアを考えていたね」  
「みんなを引っ張ってくれているね」  
「忘れずに仕事をしていたね」  
「最後までやり遂げてくれたね」  
「黒板が綺麗になって気持ちがいいな」(具体的な取組)

## 係や委員会の活動中

「準備がはやいね」  
「しっかり手を洗っているね」  
「ていねいに運んでいるね」  
「重い食器を運ってくれたね」  
「こぼさずによそえて、すごいな」  
「残さず食べているね」  
「苦手な～にも挑戦したんだね」  
「ていねいに掃除をしているね」  
「箒の使い方がうまいね」  
「きれいになったかどうかを確認できて、ばっちりだね」

## 給食や掃除中

「廊下を歩いているね」  
「夢中になって～していたね」  
「静かにドアを閉めてくれたね」  
「言葉づかいがていねいだね」  
「みんなのことをよく見ているね」  
「□□さんを手伝って優しいね」  
「□□さんのことを気遣ってくれたんだね」  
「～を知っているなんて、すごい」  
「〇〇さんらしくていいね」

## その他

### 言葉掛け

- ★Iメッセージを伝えて  
(先生は、～と思っているよ)  
[感謝・お礼][感情][共感][支持][労い]
- ★Theyメッセージを添えて  
(□□さんが、～と思っているよ)  
[他者の言葉の代弁]

### 具体的場面

- ★成長している姿
- ★変容している姿
- ★達成させている姿
- ★よさを発揮している姿
- ★活かしている姿  
(発想・経験など)

### 感情

「〇〇さんの～なところが  
すごい(すばらしい)と思うよ」  
「～してくれて、(～が見れて)  
嬉しいよ(安心するよ)」  
「〇〇さんらしくて、ほっとするよ」  
「始めて知った、よく知っているね」  
「友達のいいところを見付けるの  
がとてもうまいなあ」  
「〇〇さんがいると、心強いよ」  
「〇〇さんと一緒にいると、  
楽しい気持ちになるよ」

### 感謝・お礼

「いつもありがとう」  
「～してくれて、ありがとう」  
「力を貸してくれてありがとう」  
「すごく頼りになったよ(なるよ)」  
「助かったよ(助かっているよ)」  
「〇〇さんに頼んでよかったな」  
「〇〇さんがいてくれて、よかったな  
(ありがたいな)(ありがとう)」  
「みんなのために動いて(考えて)  
くれて、ありがとう」  
「〇〇さんのおかげだよ」

### 労い

「すごい、～できたんだね」  
「がんばってくれているね」  
「がんばった甲斐があったね」  
「力を発揮してくれたね」  
「一生懸命だったね」  
「大活躍していたね(したんだね)」  
「たくさん～したんだね」  
「努力した(頑張った)んだね」  
「なかなかやるな～」  
「大変だったんじゃない？」

## 児童のよさ 児童のがんばり

### 教師の 思いや願いを 言葉にして！

「先生も、そう思うよ」  
「そうだよね(そうなんだね)」  
「〇〇さんの言う通りだね」  
「先生も、まねしてみようかな」  
「〇〇さんの考え、賛成するよ」  
「分かるな、〇〇さんのその考え  
(気持ち、言いたいこと)」  
「ほんとだ、ワクワクしてくるね」  
「おもしろそうな～を見つけたね」  
「すごくいい質問(考え)だね」  
「うん、いいね、その～」

### 共感

□□さんが  
(他の児童、教師、保護者など)  
+  
あなたのことを、～と褒めていて、  
+  
先生は、～だったよ  
(自分が褒められているような気分、  
嬉しかった、誇らしかったなど)  
のように第三者の言葉を児童に  
返しながら思いを伝える

「応援しているよ」  
「みんなも賛成してくれるよ」  
「みんなの役に立ちそうだね」  
「〇〇さんの努力を、みんなも  
見ているよ(分かってくれるよ)」  
「何かあったら、頼りにしているよ」  
「先生は、〇〇さんの味方だよ」  
「そのままでもいいんじゃないかな」  
「100点満点だね。さらに120点  
を目指してみない？」  
「きっと、大丈夫だよ」

### 支持

### 言葉掛け

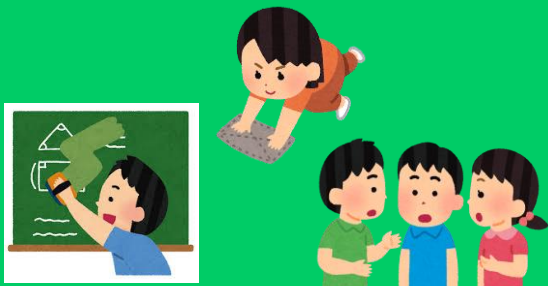
- ★Iメッセージを伝えて  
(先生は、～と思っているよ)  
[感謝・お礼][感情][共感][支持][労い]
- ★Theyメッセージを添えて  
(□□さんが、～と思っているよ)  
[他者の言葉の代弁]

### 具体的場面

- ★成長している姿
- ★変容している姿
- ★達成させている姿
- ★よさを発揮している姿
- ★活かしている姿  
(発想・経験など)



### 4：他の児童ががんばっていることを参考にするように促す



#### ★しかけるポイント★

- ・他の児童が取り組んでいることに興味をもたせ、児童の活動を他の児童へとつないでいく。  
「Aさんが～なんだけど、やってみる子いるかな。」  
「Bさんと、一緒になら、できそうじゃない？」  
「(数人の児童に向けて) みんなで～してみたらどうかな？協力したらできるんじゃないかな。」

### 3：教師がこれまでしていたことを児童に委ねる



#### ★しかけるポイント★

- ・2で取り組んだことを継続して取り組めるようにする。  
「その調子!とても助かるよ。これからも続けてごらん。」
- ・児童の「できるかな?」を「やってみよう!」に変える。  
「だいじょうぶ!きつとうまくいくよ。」
- ・新しい活動に意識がもてるように促す。  
「～なことをしてみるのはいかがでしょうか?」

### 2：仕事や役割を児童に頼む



#### ★しかけるポイント★

- ・教師がしている作業を手伝わせたり、仕事を頼んだりする。  
(失敗しても教師がフォローしてくれるという安心感がある。)
- ・複数の児童に手伝いや仕事を頼む。  
(プレッシャーを感じることなく、遊び感覚で取り組める。)
- ・児童の「手伝います!」を採用する。  
(難しそうであっても、違う内容を提案して挑戦させるなど、児童の「役に立ちたい」を叶える。)

### 1：児童と一緒に取り組む



#### ★しかけるポイント★

- ・教師のすぐそばで、同じ作業に取り組ませる。  
(教師の手本がすぐ近くにあることで、安心して取り組める。)
- ・活動後にしっかり褒め、「だれかのためにできた!」「役立てた!」という実感を得られるようにする。(『ポジティブワード』の活用)

#### ★ポイント①

「役に立つ場」を意図的にしかけて、「役に立った」経験を増やしていく。「～してほしいな」「～してみない?」と、児童が意思決定できるような言葉掛けをすると、主体的な行動を促せる。

#### ★ポイント②

児童のやる気や能力に応じて、教師が寄り添ったり距離を置いて見守ったりしながら、成功経験を得るように支援していきたい。

#### ★ポイント③

1人から2人、2人から3人・・・と人数を増やし、「手本」の役割を教師から児童にバトンタッチすると、学級集団に「貢献しよう」とする雰囲気生まれるようになる。



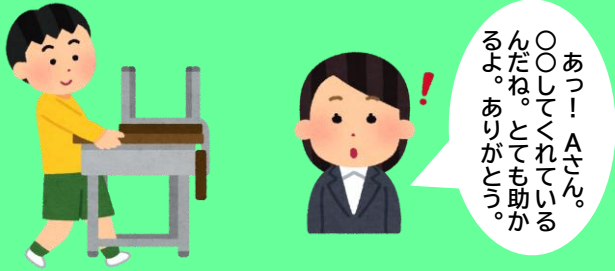
# 教師の関わり方編 ～グッドチョイス②（紹介する）～

学級全体に「紹介する」→貢献しようとする姿を広める

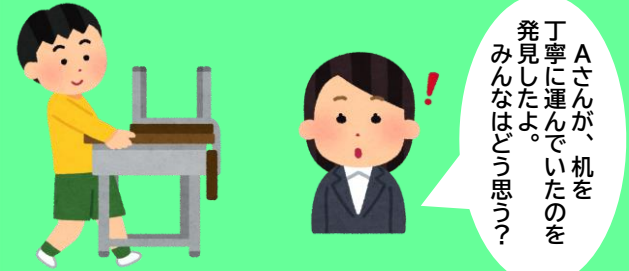
目次に  
戻る

★チョイスポイント：「やってみよう」の心がグッド★  
・『ポジティブワード』の活用で承認の言葉掛けを。  
「あっ！Aさん、〇〇しているね。嬉しいな。ありがとう」  
※「なぜ～しようと思ったのかな？」「自分で考え付いたことなの？」など、児童が行動に至るまでの経緯を尋ねると、児童の気持ちの変容をつかむことができ、更に承認できる。

★チョイスポイント：その行動がグッド★  
「Aさんが〇〇なことをしていたよ。嬉しかったな。」  
「Aさんの〇〇なところを発見したよ。すごいよね。」  
「△△先生が、『Aさんが、授業中に～をしていて、すばらしい！』と褒めていたよ。△△先生、きっと嬉しかったんだろうね。」  
「Aさんが～だったよ。みんなはどう思う？」



A：児童のよさやがんばりを見付けて承認する

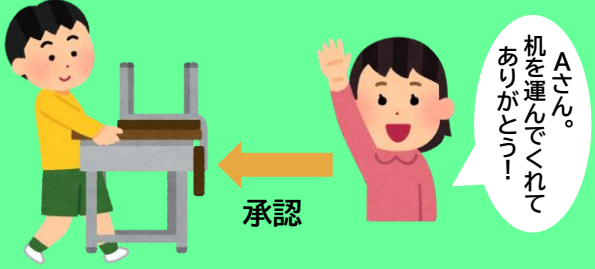


B：児童のよさやがんばりを紹介する

C：他の児童のよさやがんばりを承認している児童を紹介する

児童同士がよさやがんばりを認め合えるように

D：児童同士がよさやがんばりを承認し合う様子を紹介する



承認



貢献

承認

★チョイスポイント：気付いたあなたがグッド★  
「Bさんが、Aさんの〇〇なところを褒めていたよ。友達を褒められるってすごいよね。」  
「Aさんが一生懸命〇〇していたら、Bさんが応援をしていたよ。応援されると、頑張れそうだね。」  
「Bさんが、Aさんの～なところを褒めていたよ。みんなはどう思う？」

★チョイスポイント：2人の関係がグッド★  
「Aさんが声を掛けたら、Bさんがとても嬉しそうだったよ。何があったのかな？みんなに教えて。」  
のように、児童同士のやりとりの様子を紹介しながら、「みんなはどう思う？」と投げ掛ける。  
(2人の児童に事実を確認して、学級全体に紹介することの許可を得ておくことも大切)

## ★ポイント①

「事実の言葉（貢献の姿）＋気持ちの言葉（承認の思い）」で紹介すると、相手を認めることの例示や相手を認めようとする意欲を高めることにつながる。

## ★ポイント②

紹介をした後に、「みんなはどう思う？」と投げ掛けると、それぞれの児童のよさやがんばり（貢献の姿）と、その姿を承認するよさについて、学級全体で考えるきっかけになる。

## ★ポイント③

「みんなはどう思う？」と投げ掛けて意見を取り上げると、その児童を褒める場を設けられる。

## ★ポイント④

紹介する児童を、「Aさんたち」と複数になるのもよい。





## 学級活動編

低学年  
「みんなで なかよく！」

[学習指導案](#)

[デジタル教材\(背景画像\)](#)

[ワークシート](#)

[提示資料](#)

[目次に戻る](#)

# 学級活動学習指導案（低学年）

## 1 題材名 みんなでなかよく！（2）イ

## 2 題材観

本題材は、学級活動「（2）日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の内容「イ よりよい人間関係の形成」として計画した題材である。小学校学習指導要領解説特別活動編（平成29年7月）では、特別活動において育成すべき資質・能力の重要な視点として人間関係形成を挙げ、具体的には、「学級や学校において互いのよさを見付け、違いを尊重し合い、仲よくしたり信頼し合ったりして生活することのよさや大切さを理解することが考えられる。」とある。そこで、学級が仲よくなるために自分にできる活動を考え、実践することを通して、友達を笑顔にしたり楽しませたりする喜びを実感でき、さらに、自分が好きなことや得意なことを生かそうとしたり、学級の一員として進んで取り組もうとしたりする意欲を高めることができると考え、本題材を設定した。

## 3 児童の実態及び指導方針 ～略～

## 4 研究との関わり

令和4年12月に、文部科学省により示された生徒指導提要（改訂版）では、生徒指導の実践上の視点として、自己存在感を感受できるような配慮が必要であることを示し、「『自分も一人の人間として大切にされている』という自己存在感を、児童生徒が実感することが大切」であることや「他者のために役立った、認められたという自己有用感を育むことも極めて重要」であることを述べている。

また、国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センターの生徒指導リーフ「『自尊感情』？それとも『自己有用感』？」（平成27年3月）では、「社会性の基礎となるもの『自己有用感』」と述べ、集団活動の参加を通して、「進んで協力できた、自分から働きかけができた、誰かの役に立つことができた、という集団の一員としての自信や誇りの獲得が課題」であるとしている。

以上のことから、児童の自己有用感を高めるために、児童同士が主体的に関わり、互いのよさを認め合える場の工夫が重要であると言える。そこで、児童が「役に立った（貢献）」や「認められた（承認）」という実感を得られることを目指した教材「自己有用感グロウアップナビ（以下、有用感ナビ）」の作成と活用をする。「有用感ナビ」は、日常の学校生活における児童への支援の方法を具体的に示した「教師の関わり方編」と児童同士の認め合い活動と相互評価の蓄積の工夫を取り入れた学級活動の指導例を示した「学級活動編」で構成している。

本題材は、学級が仲よくなるための活動について話し合うことを通して、学級の一員として自分ができることを意思決定し、2週間の実践期間に取り組んでいく。これらの学習の中で、学級のために貢献している姿を認め合うことと、他の児童からの承認の思いを蓄積することを通して、児童の自己有用感が高まったかを検証するものである。

## 5 評価規準

### (1) よりよい生活を築くための知識・技能

- ・自己の身の回りの諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、基本的な生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。

### (2) 集団や社会の形成者としての思考・判断・表現

- ・自己の身の回りの諸課題を知り、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。

### (3) 主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度

- ・自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、進んで課題解決に取り組み、他者と仲よくしてよりよい人間関係を形成しようとしている。

6 指導と評価の計画（本時に向かう活動→本時の活動→実践の期間→日常につなげる活動）

時 間	●ねらい ○学習活動 [☆] : ICT活用	目指す児童の姿		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的態度
本 時 に 向 か う 活 動	（短学活①） ●学級の実態について考え、学級を仲よくする意味を理解できるようにする。 ○学級の仲のよさを考える。 [☆] アンケート結果を画面に提示	自分の回答と学級の回答の違いがあることに気付いている。	学級の全員が仲よくなる大切さを考えている。	これまでの自分や学級の様子を思い出している。
	（短学活②） ●学級が仲よくなることについて、具体的な場面やその時の気持ちを理解できるようにする。 ○表情と関連させて仲がよい学級の姿について考え、話し合う。 ○仲よしの表情について、その時の気持ちや台詞を想像し話し合う。 [☆] オクリンク	仲よくなった学級の姿に合う気持ちや台詞に気付いている。	仲よくなった学級の姿に合う気持ちや台詞を考え話し合っている。	学級の仲がよくなると、どんないいことがあるか考えようとしている。
本 時 の 活 動	（学級活動の授業時間） ●学級が仲よくなるために、1日に1回は自分ができることを考え、決定するとともに、他の児童が決定した活動内容に対して、そのよさを認めたり応援したりすることができるようにする。 ○これまでの生活を振り返り、仲よくなったり仲よくさせたりした経験について話し合う。 ○学級が仲よくなるために、できそうな活動を考え、話し合う。 ○学級が仲よくなるために、自分ができることを決め、紹介し合う。	学級が仲よくなるための活動に気付いている。	学級が仲よくなるために自分ができる活動を決定している。	学級が仲よくなるための活動を考えている。
実 践 す る 期 間	（日常の学校生活）※2週間程度 ●学級に貢献することの達成感やその姿を承認された実感を得ることができるようにする。 ○本時の活動で決定した活動を実践する。 （短学活） ●他の児童のがんばっている点やよい面に気付き、承認の思いを抱けるようにする。 ○その日の取組を振り返り、自己評価をする。 ○児童が互いに「いいねカード」を送り合う。 [☆] オクリンク	学級が更に仲よくなるために、学級の一人として活動することの意義に気付いている。	肯定的な表現を用いて他の児童のよさや取組について承認している。	意思決定した活動に進んで取り組んでいる。
日 常 に つ な げ る 活 動	（学級活動の授業時間） ●できるようになったことや感じたことを振り返り、今後の生活に生かしていこうとする態度が身に付くようにする。 ○「みんなでなかよく」の取組を思い出したり、「いいねカード」を見返したりし、学級が更に仲よくなるためにがんばりたいことを考える。 [☆] オクリンク	学級が更に仲よくなる方法に気付いている。	できるようになったことや他の児童から承認されたことに着目して振り返っている。	他の児童と仲よくするために、これから取り組んでいきたいことについて決定している。



## 7 本時に向かう活動

### (1) ねらい

学級が仲よくなることについて、具体的な場面やその時の気持ちを理解することができるようにする。

### (2) 準備


教師：教師用端末、アンケート、表情カード（笑顔、期待、怒り、悲しみ、苦しみ）、気持ちカード

児童：1人1台端末、


### (3) 活動の流れ

時間	○学習活動 [☆] I C T活用 ・予想される児童の意識	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ●努力を要する児童への支援 ◇評価
短学活①	○アンケートに答えたり、結果について話し合ったりし、学級の実態を考える。 [☆] Google Forms ・このクラスは仲よしかな。 ・自分は仲よくできているかな。 ・自分は仲よしだと思っていたけど…。 ・仲よしだと思っていた子もいる。 ・みんなが仲よしにならなきゃ。	○アンケート結果を示し、学級の全員の児童が「仲よし」だと思っていない現状に着目させ、活動に取り組む必要感が高まるようにする。 ●出された意見について賛成か反対かを投げ掛け、挙手させることで、学級の実態に対して関心をもてるようにする。 ◇仲がよい学級について、これまでの自分や学級の様子を思い出して考えようとしている。（主体的態度）
短学活②	○表情と関連させながら、仲がよい学級の姿について考え、話し合う。 ・仲よくできると、どん顔になるかな。 ・にっこりしている顔だ。 ・楽しそうな顔だ。 ・これ、怒っている感じがする。 ・「にこにこ」と「わくわく」だ。 ○仲よしの表情に合う気持ちや台詞を想像し話し合う。 [☆] オクリンク ・楽しい、嬉しい、ほっとした やったー、できた、ありがとう ・おもしろそう、楽しみ、ふしぎだな やるぞー、何が起こるのかな 一緒に遊ぼうよ ・クラスのみんなが笑顔になれる。 ・友達が増える。 ・学校が楽しくなる。 ・学校に行きたいと思うようになる。 ・クラスのみんなを好きになれる。	○5種類の表情カードの中から、仲よしに合う表情を選び、名前を付けることで、仲がよい学級の姿に対するイメージを共有できるようにする。 ○表情カードの名前を確認する。 （例：「にこにこ」、「わくわく」、「ハッピー」など） ●仲がよい友達と過ごした時のことを思い出すように、助言し、仲がよい学級の姿を想像できるようにする。 ◎オクリンク上の他の児童の意見を見て、いいと思うカードを選ばせたり理由を発表させたりし、他の児童の考えを受け入れる態度が身に付くようにする。 ◎「有用感ナビ」の「グッドチョイス②（C）」を活用し、他の児童のカードを選べた児童も、カードを選ばれた児童も承認することで、他の児童のよいところを進んで見付ける意識が高まるようにする。 ○学級が仲よくなると、どのようないいことがあるかを想像させることで、学級の人間関係がよりよくなることのよさに気付けるようにする。 ●自分が、にこにこ（わくわく）した経験を思い出してみるよう助言することで、嬉しい気持ちや期待する気持ちを想像できるようにする。 ◇「仲よし」の表情に合う気持ちや台詞に気付いている。（知識・技能）


### (4) 短学活②で、黒板に掲示する5つの表情カード（左）、オクリンクで配布する気持ちカード（右）




笑顔（にこにこ）




期待（わくわく）



怒り

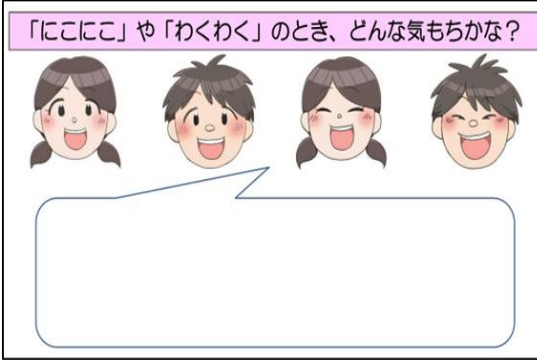


悲しみ



苦しみ

「にこにこ」や「わくわく」のとき、どんな気持ちかな？



## 8 本時の活動

### (1) ねらい

学級が仲よくなるために自分ができることを考え、決定するとともに、他の児童が決定した活動内容に対して、そのよさを認めたり応援したりすることができるようにする。

### (2) 準備

教師：教師用端末、なかよしカード、本時に向かう時間に使用した表情カード（笑顔、期待）

### (3) 活動の流れ

時間	○学習活動 [☆] I C T活用 ・予想される児童の意識	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ●努力を要する児童への支援 ◇評価
5分	○本時に向かう活動で思い描いた仲がよい学級の姿を思い出し、本時のめあてを知る。 ・クラスの全員が仲よくなるんだよね。 ・「ありがとう」や「やったー」だね。	○本時に向かう活動で、児童から出された意見を提示することで、児童が思い描く仲がよい学級の姿のイメージを確認したり共有したりできるようにする。
	[めあて] クラスが「なかよし」になるために、できることを考えよう。	
10分	○今までに、にこにこ（わくわく）したり、させたりした経験について、話し合う。 ・「おはよう」って言ってくれて、にこにこになった。 ・遊びに誘ったら喜んでくれたよ。 ・～さんのボールは速いから、ドッジボールをした時、わくわくしたよ。	○教師がこれまでに見取った児童同士が仲よく関わっていた様子を伝えることで、これまでの経験を思い出すきっかけになるようにする。 ◎「有用感ナビ」の「ポジティブワード」を活用し、より具体的な経験について発表している児童を承認することで、取り組んでいきたい内容を考えようとする意欲を高めることができるようにする。 ●嬉しかったり楽しかったりした時のことを思い出してみよう促し、他の児童との関わりを思い出すことができるようにする。
15分	○学級みんなが、にこにこしたり、わくわくしたりするために、1日に1回はできそうな活動を考える。 ・あいさつをしたらどうかな。 ・ジャンケンならすぐにできるよ。 ・絵を描いてプレゼントしたい。 ・たくさん（みんなで）遊びたいな。 ・その子のいいところを発表しよう。 ・お手紙を書いて渡したいな。 ・帰りの会でできるかな。 ・朝、学校に来たらできるよ。 ・休み時間にもできそう。	○教師がこれまでに見取った児童の取組の中で、継続させてほしい取組や新しく取り組んでほしい取組を伝えることで、具体的に考えられるようにする。 ○「いつ」「だれに」取り組めそうかを黒板に示すことで、児童が実践可能な取組を見付けられるようにする。 ◎「誰が」にこにこ（わくわく）するとよいかを考えさせ、学級の全員が、にこにこ（わくわく）になる取組がよいことをおさえることで、貢献の意識を高められるようにする。 ●他の児童の考えの中で、やってみたい取組はどれか投げ掛け、自分の事として捉えられるようにする。 ◇学級が仲よくなるための活動に気付いている。 (知識・技能)
15分	○学級みんながにこにこ（わくわく）するために、自分ができることを決めなかよしカードに書く。 ・朝、みんなにあいさつをする。 ・休み時間に遊びに誘う。 ・1日1回は、ハイタッチをする。 ・いいところを見付けて褒める。 ・日直に子に「ありがとう」を言う。 ・「がんばれ」って応援する。 ・帰るときに、バイバイをする。	○「いつするか」「何をするか」の視点を与えることで、実践可能な活動を決められるようにする。 ◎各自が決めた活動を隣の席の児童同士で紹介し合った後に、感想を伝え合う時間を設けることで、学級のために貢献しようとする意欲が高まるようにする。 ◎「有用感ナビ」の「グッドチョイス②（C、D）」を活用し、他の児童が考えた取組を承認する言葉掛けしている児童を紹介したり、承認されてどのような気持ちになったかを児童に発表させたりすることで、認め合う関係の心地よさを感じられるようにする。

<p>○なかよしカードに書いた内容を、隣の児童同士で紹介し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すごくいいと思うよ。</li> <li>・ぼくもがんばろう。</li> <li>・他の子はどんなことをするのか</li> </ul>	<p>●自分が好きなことや得意なことを生かしてみるように助言することで、学級のためにできることを見付けられるようにする。</p> <p>◇学級が仲よくなるために自分ができる活動を決定している。（思考・判断・表現）</p>
---	--

#### (4) なかよしカード、板書計画

年 月 日 なかよしカード **みんなで なかよく！**

年 組 ( ) ばん ( )

クラスが「なかよし」になるために (いつするの?)

ときに、

(なにをやるの?)

をします！

**【めあて】**

クラスが「なかよし」になるために できることを考えよう。

<p>朝来たら げんかんで <b>あいさつする</b></p> <p>かえりの会で <b>「ありがとう」を言う</b></p> <p>1日●回 1日◆人</p> <p>じゅぎょうのときに <b>「がんばれ！」と言う</b></p> <p>はっぴょうしている子に かえりの会で <b>「すごいね」と言う</b></p> <p>がんばっていた子に じゅぎょうのときに <b>はくしゅをする</b></p> <p>はっぴょうしている子に</p>	<p>かえりの会で <b>プレゼントする</b></p> <p>カードを 絵をかくて</p> <p><b>にこにこ</b></p> <p><b>わくわく</b></p> <p>かえる時に <b>あくしゅをする</b></p> <p>みんなと</p>	<p>休み時間に 授業中に <b>べんぎょうを教える</b></p> <p>となりの子に</p> <p>きゅうしゅくのときに <b>お手つだいをする</b></p> <p>助ける 日直を きゅうしゅく当番を かかりのおしごとを</p> <p>休み時間に 昼休みに <b>ゲームをする みんなであそぶ</b></p> <p>「あそぼう」ってさそう 今日のアそびをつくる</p>
---	--	---

### 9 実践する期間

#### (1) ねらい

学級に貢献することの達成感やその姿を承認される実感を得ることができるようになるとともに、他の児童のがんばっている点やよい面に気づき、承認の思いを抱けるようにする。

#### (2) 準備

教師：教師用端末、本時の活動で児童が書いた「なかよしカード」の写真を貼ったオクリンクのカード

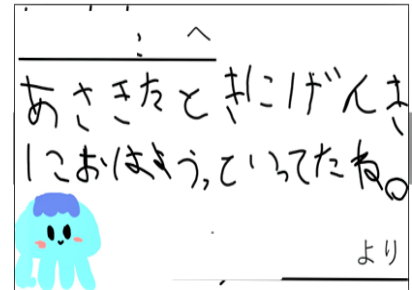
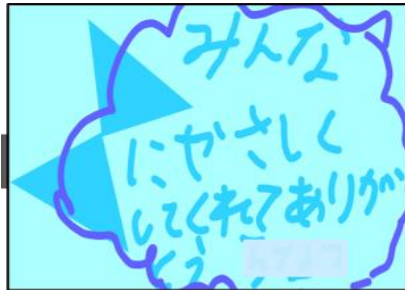
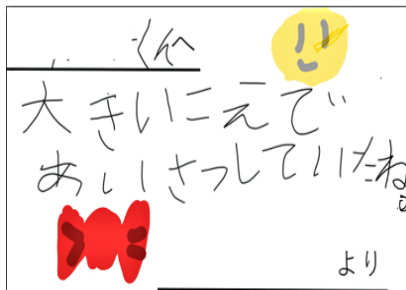
児童：1人1台端末

#### (3) 活動の流れ

時間	○学習活動 [☆] ICT活用 ・予想される児童の意識	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ●努力を要する児童への支援 ◇評価
日常の学校生活	<p>○本時の活動で決定した取組を実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスのみんなが仲よくなるためにがんばろう。</li> <li>・クラスのみんながにこにこしたりワクワクしたりできるといいな。</li> <li>・みんなのためにがんばるのって、楽しいな。</li> <li>・先生が褒めてくれて嬉しいな。</li> </ul>	<p>◎「有用感ナビ」の「ポジティブワード」を活用して、実践している児童を承認することで、認められる心地よさを感じられるようにする。</p> <p>◎「有用感ナビ」の「グッドチョイス② (A、B)」を活用し、児童の取組を学級全体に紹介したりすることで、貢献しようとする気持ちがより高まるようにする。</p> <p>●教師と一緒に取り組んだり、他の児童と協力して取り組めるようにしたりするなど、個別の支援を通して、学級のためにできる活動を見付けられるようにする。</p> <p>◇意思決定した活動に進んで取り組んでいる。 (主体的態度)</p>
短学活	<p>○その日の取組を振り返り、自己評価をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がんばったぞ。</li> <li>・がんばってやってみたら、みんながにこにこしてくれた。</li> <li>・明日はがんばろう。</li> </ul> <p>○児童同士で「いいねカード」を送り合う。</p> <p>[☆] オクリンク</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達から褒められて嬉しいな。</li> </ul>	<p>○取り組んだ様子を「がんばった」「すこしががんばった」「がんばれなかった」に応じて挙手することを通して、一日の取組を振り返ることができるようにする。</p> <p>◎カードを送り合う活動を通して、他の児童を承認する態度が身に付くようにするとともに、学級のために貢献できた実感を得ることができるようになる。</p> <p>◎「有用感ナビ」の「グッドチョイス② (C)」を活用し、他の児童のよさをたくさん見付けている児童や肯定的な表現を用いてカードを作成している児童を紹介することで、相手を承認しようとする意欲を高めたり、</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・もっとがんばりたいな。</li> <li>・自分にできることを他にもないかな。</li> <li>・～さんのいいところを発見できた。</li> <li>・友達にカードを送ったらすごく喜んでくれて、嬉しい。</li> <li>・もっと友達のがんばっているところを見付けよう。</li> </ul>	承認する視点が広がったりするようにする。 ○隣（前、後）の席の児童、窓側（廊下側）の席の児童、～班の児童など、カードを送る児童を日替わりで設定し、どの児童にもカードが届くようにする。 ●他の児童のカードを参考にするよう助言し、相手を承認する表現に気付くようにする。 ◇肯定的な表現を用いて、他の児童を承認している。 （思考・判断・表現）
---	--

(4) 児童がオクリンクで送り合う「いいねカード」



## 10 日常につなげる活動

### (1) ねらい

できるようになったことや感じたことを振り返り、今後の生活に生かしていこうとする態度が身に付くようにする。

### (2) 準備

教師：教師用端末、児童が活動している様子の写真、振り返りシート

児童：1人1台端末

### (3) 活動の流れ

時間	○学習活動 [☆] ICT活用 ・予想される児童の意識	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ●努力を要する児童への支援 ◇評価
10分	○これまでの取組を通して、できるようになったことやがんばったことを思い出す。 ・毎日できて、よかった。 ・みんなが仲よくなれて嬉しいな。 ・みんなのためにがんばれた。	○活動に取り組む児童を撮影した写真を提示したり、「有用感ナビ」の「ポジティブワード」を活用して、教師が見取った児童のよさやがんばりを伝えたりし、学級が仲よくなったことを実感できるようにする。 ●教師が見取った児童のよさやがんばりを伝え、自分が取り組んだ活動を思い出せるようにする。 ◎「有用感ナビ」の「ポジティブワード」を活用し、学級が仲よくなったことについて触れている児童を紹介することで、貢献することの意義の理解が深まるようにする。 ○どのようにすれば、学級の仲がさらに深まるかを投げ掛けることで、めあてにつながるようにする。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>【めあて】クラスがもっと「なかよし」になるために、がんばりたいことを考えよう。</b> </div>	
15分	○他の児童と送り合った「いいねカード」を見直し、他の児童を認めたり、他の児童から認められたりしたときの気持ちを振り返る。 ・カードをたくさん送れたよ。 ・みんな、がんばっていたな。 ・～さんが、にこにこしてくれた。 ・得意な絵をかいてあげたよ。	○具体的な場面を思い出しながら書くように促すことで、相手と関わることのよさや大切さを感じられるようにする。 ◎「有用感ナビ」の「グッドチョイス②（A、B）」を活用し、他の児童から「いいねカード」をもらって嬉しかったことを書いている児童を紹介することで、承認されるよさをより感じるようにする。



	〔☆〕 オクリンクに蓄積された「いいねカード」	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カードを貰えてうれしかった。</li> <li>・みんながほめてくれた。</li> <li>・みんなが見てくれていたんだな。</li> <li>・みんなありがとう。</li> </ul> 〔☆〕 オクリンクに蓄積された「いいねカード」	●もらって嬉しかったカードを選ぶように助言することで、承認されたことに気付けるようにする。 ◇自分ができるようになったことや他の児童から承認されたことに着目しながら振り返っている。 (思考・判断・表現)
20分	○学級の子みんながもっと仲よくなるために、これからしていきたいことを考え、交流する。 ・これからも、あいさつをしよう。 ・今度は自分から遊びに誘って、もっと仲よくなりたいな。 ・「ありがとう」をいっぱい言おう。 ・みんながこれからやってみたいと思っていることもすごいな。	○自分ができたことや他の児童が取り組んだ活動の中で興味をもったことに着目させ、学級が更に仲よくなるために貢献しようとする意欲をもてるようにする。 ◎交流の際に理由を尋ねることで、他の児童から認められたことや学級に貢献できたことが、次の活動への意欲につながることを感じ取れるようにする。 ●教師がこれまでに見取った児童のよさやがんばりを伝え、これから生かしていきたいことを見付けられるようにする。 ◎「有用感ナビ」の「グッドチョイス② (C、D)」を活用し、他の児童と褒め合ったり応援し合ったりしている児童たちの様子を紹介することで、貢献や承認の思いを実感できるようにする。 ◇他の児童と仲よくするために、これから取り組んでいきたいことを決定している。(主体的態度)


(4) 板書計画

**【めあて】**  
 クラスがもっと「なかよし」になるために、がんばりたいことを考えよう。

児童が活動している様子の写真

「いいねカード」を送り合っているときの写真

クラスが、もっと「なかよし」になるために！



できるようになったこと、がんばったこと


- ・
- ・

「いいねカード」をおくって

- ・
- ・

「いいねカード」をもらって

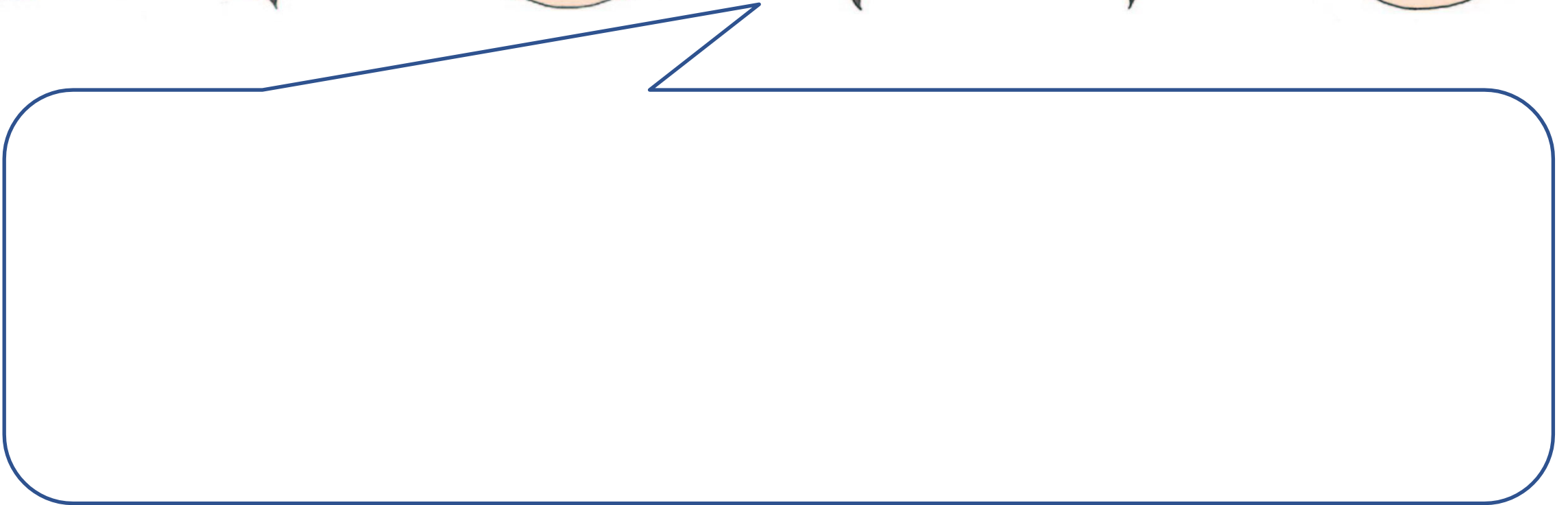
- ・
- ・



これからがんばりたいこと

- ・
- ・
- ・

「にこにこ」や「わくわく」のとき、どんな気持ちかな？



年 学かつ なかよしカード

みんなで なかよく！



年 組( )ばん( )



クラスが「なかよし」になるために



(いつするの?)

ときに、

(なにをするの?)

をします！

年 学かつ



**みんなで なかよく！**



年

組

ばん（

）

★「できるようになったこと」や「がんばったこと」はなにかな？

Blank space for writing, with two horizontal dashed lines for guidance.



★みんなに「いいねカード」をあげて、どんな気持ちになったかな？



Blank space for writing, with two horizontal dashed lines for guidance.

★みんなから「いいねカード」をもらって、どんな気持ちになったかな？

Blank space for writing, with two horizontal dashed lines for guidance.



★クラスがもっと「なかよし」になるために、がんばりたいことはなにかな？



Blank space for writing, with two horizontal dashed lines for guidance.



にこにこ



わくわく

# 「いいねカード」をかくときのやくそく

とも なまえ じぶん なまえ  
★友だちの名前 と 自分の名前 をかこう。

★もらってよろこぶ ことばを つかおう。

★もじは すきな色 いろ をつかおう。

★自分で絵をかいてもいいよ。

★絵をえらびたいときは

① 「取り込み」のボタンをおす。

② 使いたい絵をえらぶとカードに絵をはる  
ことができる。

# 「いいねカード」をおくるとき<sup>の</sup>やくそく

★「みんな」のボタンをおす。

★おくりたい友だちの名前<sup>とも なまえ か</sup>が書いてある  
ボタンをおす。

<sup>かんじ よ</sup>（漢字が読めなかったら先生<sup>せんせい</sup>に教えてもらおう<sup>おし</sup>）

★「選<sup>えら</sup>んだ人<sup>ひと</sup>へおくる」のボタンをおす。



たての  
れつの子



よこの  
れつの子



おなじ  
はんの子





となりの子



うしろの子



まえの子



ひだいの子



みぎの子



**あさの会**

**かえりの会**

**あさ来たたら**

**20分休み**



じゅぎょうのとき

きゅう食のとき

そうじのとき

おひる休み

**かえるとき**



クラスが

もっと

「なかよし」に

なるために!





# 学級活動編

中学年  
「目指せ！楽しいクラス」

[学習指導案](#)

[デジタル教材\(背景画像\)](#)

[ワークシート](#)

[提示資料](#)

[目次に戻る](#)



# 学級活動学習指導案（中学年）

## 1 題材名 目指せ！楽しいクラス ～「お役立ち係」をやってみよう～ 学級活動（3）イ

### 2 題材観

本題材は、学級活動「（3）一人一人のキャリア形成と自己実現」の内容「イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解」として計画した題材である。小学校学習指導要領解説特別活動編（平成 29 年 7 月）では、特別活動において育成すべき資質・能力の重要な視点として社会参画を挙げ、具体的には、「学級や学校のために友達と力を合わせて働くことの意義を理解し、工夫しながら自己の役割を果たすことができるようにすることが考えられる。」とある。そこで、学級の生活の充実のために児童一人一人が自分にできる係活動を考え、実践することを通して、学級や他の児童の役に立った喜びを実感でき、さらに、自分のよさを生かそうとしたり、集団の一員として進んで取り組もうとしたりする意欲を高めることができると考え、本題材を設定した。

### 3 児童の実態及び指導方針 ～略～

### 4 研究との関わり

令和 4 年 12 月に、文部科学省により示された生徒指導提要（改訂版）では、生徒指導の実践上の視点として、自己存在感を感受できるような配慮が必要であることを示し、『『自分も一人の人間として大切にされている』という自己存在感を、児童生徒が実感することが大切』であることや「他者のために役立った、認められたという自己有用感を育むことも極めて重要」であることを述べている。

また、国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センターの生徒指導リーフ『『自尊感情』？それとも『自己有用感』？』（平成 27 年 3 月）では、「社会性の基礎となるもの『自己有用感』と述べて、集団活動の参加を通して、「進んで協力できた、自分から働きかけができた、誰かの役に立つことができた、という集団の一員としての自信や誇りの獲得が課題で」あるとしている。

以上のことから、児童の自己有用感を高めるために、児童同士が主体的に関わり、互いのよさを認め合える場の工夫が重要であると言える。そこで、児童が「役に立った（貢献）」や「認められた（承認）」という実感を得られることを目指した教材「自己有用感グロウアップナビ（以下、有用感ナビ）」の作成と活用をする。

「有用感ナビ」は、日常の学校生活における児童への支援の方法を具体的に示した「教師の関わり方編」と児童同士の認め合い活動と相互評価の蓄積の工夫を取り入れた学級活動の指導例を示した「学級活動編」で構成している。

本題材は、楽しい学級にするための係活動について話し合い、学級の一員として自分ができることを決め、実践する経験を通して、学級のために貢献する大切さに気付かせていく。さらに、児童同士の相互評価として、他の児童のよさやがんばる姿に着目し、児童が互いに承認し合う活動を繰り返し行うことで、児童の自己有用感が高まったかを検証するものである。

### 5 評価規準

#### (1) よりよい生活を築くための知識・技能

- ・学級生活の充実のために主体的に参画することの意義やそのための話し合いの手順を理解している。

#### (2) 集団や社会の形成者としての思考・判断・表現

- ・学級生活の充実と向上のために課題を考え、話し合い、自分の実践目標を意思決定している。

#### (3) 主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度

- ・学級生活の改善と充実を図るために、多様な他者のよさを生かし、協働して実践しようとしている。
- ・これまでの自分を振り返ったりこれからの集団活動や生活に生かそうとしたりしている。

6 指導と評価の計画（本時に向かう活動→本時の活動→実践する期間→日常につなげる活動）

時間	●ねらい ○学習活動 [☆]: ICT活用	目指す児童の姿		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的態度
本時に向かう活動	(短学活①) ●楽しい学級の姿について具体的に思い浮かべることができるようにする。 ○「楽しいクラス」につながるキーワードを Google Jamboard に書き込む。 [☆] Google Jamboard ○当番活動と係活動の違いを知り、係活動の目的を確認する。 [☆] 動画の視聴 ○係活動のアイデアを出し合う。	みんなで学級生活を楽しくすることの大切さと主体的に参画する意義について理解している。	学級生活の充実と向上に向けて具体的な考えをもっている。	楽しく充実した学級の具体的な姿について、より多く考えようとしている。
	(短学活②) ●楽しい学級にするためにあるとよい係活動を考えることができる。 ○あったらよい「お役立ち係」について話し合い、決定する。 ○所属したい「お役立ち係」を選ぶ。	学級生活の充実に向けて話し合う手順について理解している。	学級生活の充実を目指して話し合っている。	学級生活の充実を図るために、多様な他者の考えを取り入れようとしている。
本時の活動	(学級活動の授業時間) ●係の一員として自分ができていることを考え、決定するとともに、他の児童が決定した活動内容に対して、そのよさを認めたり応援したりすることができるようにする。 ○係の一員としてできそうな活動を考える。 ○係ごとにできそうな活動を話し合う。 ○考えた係活動の内容を基に、より具体的に取り組む方法を考え、話し合う。 [☆] Google Jamboard ○係の一員として取り組みたい活動内容を決定し、紹介し合う。	意思決定した活動内容が学級に貢献できる活動であるかどうか気付いている。	学級生活の充実と向上のために自分の実践目標を意思決定している。	学級生活の改善と充実を図るために他の児童のよさを生かそうとしている。
実践する期間	(日常の学校生活) ※2週間程度 ●学級に貢献することの達成感やその姿を承認される実感を得ることができるようにする。 ○本時の活動で意思決定した係活動に取り組む。 (短学活) ●他の児童のがんばっている点やよい面に気付き、承認の思いを抱けるようにする。 ○その日の係活動を振り返り、自己評価する ○児童同士で「いいねカード」を送り合う。 [☆] Google Jamboard	学級生活の充実のために主体的に参画する意義を理解している。 他の児童を承認する視点について気付いている。	意思決定した実践目標に沿って活動をしている。 肯定的な表現を用いて他の児童を承認している。	自分の実践目標を達成しようとしている。 他の児童のよさやがんばる姿を見付けようとしている。
日常につなげる活動	(学級活動の授業時間) ●自分ができるようになったことを、これからの学級生活に生かしていこうとする態度が身に付くようにする。 ○「お役立ち係」の取組を思い出したり、蓄積された「いいねカード」を見返したりし、今後の生活に生かしていきたいことを決める。 [☆] Google Jamboard	これまでに実践してきたことを振り返る意義を理解している。	今後の学級生活の更なる向上に向けた課題や実践目標を考えている。	これからの集団活動や生活に生かそうとしている。

## 7 本時に向かう活動

### (1) ねらい

「楽しいクラス」にするために、あるとよい係活動を考えることができるようにするとともに、所属する係を決定できるようにする。

### (2) 準備

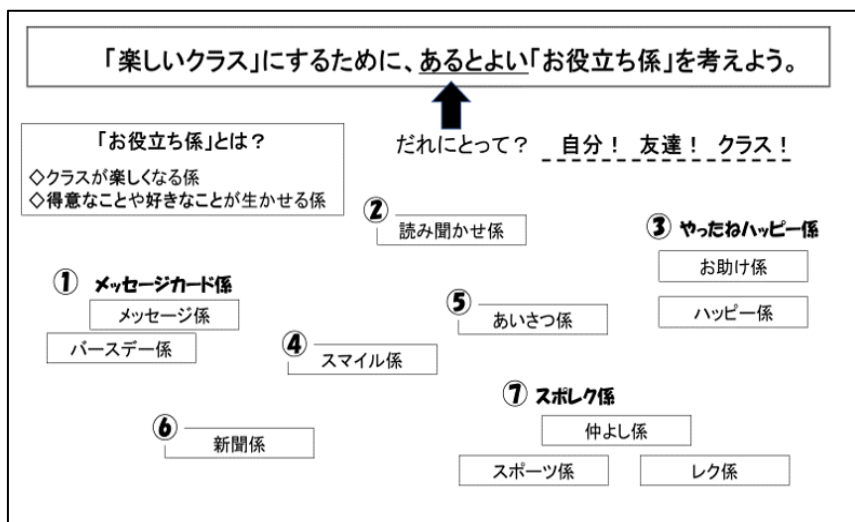
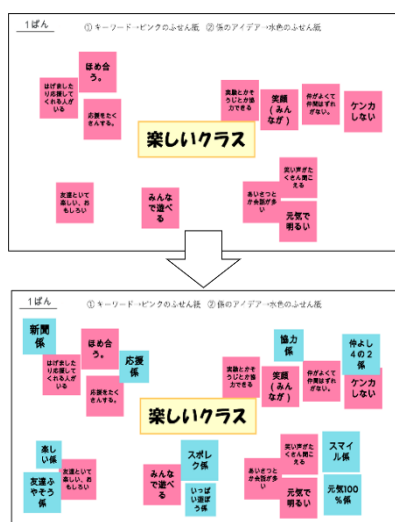
教師：教師用端末、「お役立ち係」の視点を示した掲示物

児童：1人1台端末

### (3) 活動の流れ

	○学習活動 [☆] ICT活用 ・予想される児童の意識	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ●努力を要する児童への支援 ◇評価
短学活 ①	○「楽しいクラス」につながるキーワードを Google Jamboard に書き込む。 [☆] Google Jamboard ・仲がよいクラス、大勢で遊ぶクラス、笑顔が多いクラス、応援するクラス、助け合うクラス、褒めるクラス・・・	○これまでの学級生活で、楽しかったり嬉しかったりした場面を思い出させることで、具体的な学級の姿が浮かぶようにする。 ●具体例を示して、それが自分にとって楽しいかどうかを問い掛けることで、楽しい学級について考えられるようにする。
	○当番活動と係活動の違いを知り、係活動の目的を確認する。 [☆] 動画の視聴（最初の4分間のみ） ・当番活動と係活動は違うんだ。 ・係活動って楽しそう、やってみたい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">「お役立ち係」とは！ ◇クラスが楽しくなる係 ◇得意なことや好きなことを生かせる係</div> ○Google Jamboard 上にある「楽しいクラス」に合うキーワードに、実現できそうな係活動のアイデアを追加しながら、話し合う。 [☆] Google Jamboard ・～な係があったら楽しくなりそう。 ・スマイル係、新聞係、バースデー係、お笑い係、レク係、クイズ係・・・ ・どんな係があるとよいのかな、休み時間に考えてみよう。	○動画（国立教育政策研究所 小学校特別活動映像資料 学級活動編「係活動をしよう」）を視聴し、係活動は楽しい生活にするための取組であることに着目させることで、「貢献」の気持ちが生まれるようにする。 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=xXVfL1T8G5A">https://www.youtube.com/watch?v=xXVfL1T8G5A</a> ●動画で挙げられていた係活動の中に、今までに経験した係活動があるかどうか問い掛けることで、係活動への関心をもてるようにする。 ○係の名称や活動内容など、思い付いた通りにカードに記入させ、より多くの意見が挙がるようにする。 ◎「有用感ナビ」の「グッドチョイス②(B)」を活用し、他の児童の意見を知り共感や賛成をしている児童を紹介することで、相手を承認しようとする態度が身に付くようにする。 ◇他の児童の意見を知り、共感したり自分の意見に加えたりしている。(主体的態度) ○次の短学活で話し合う、「学級にあるとよい係活動」について、考えておくように伝え、係活動に取り組む意欲が高まるようにする。
短学活 ②	○あったらよい「お役立ち係」について意見を交流し、決定する。 ・みんなが楽しかったり、仲よくなったりできる係はどれだろう。 ・「楽しいクラス」に近づくのはどの係だろう。 ・自分が楽しくなる係はどれだろう。	◎「楽しいクラス」に近付ける係かどうかを考えさせ、学級のために貢献できる係を選べるようにする。 ○自分が取り組んでみたい係や他の児童が取り組んでくれたら嬉しい係はどれかを考えさせることで、自分のこととして捉える意識が高まるようにする。 ●自分が取り組んでみたい係活動はどれかを考えてみるように助言し、意欲が高まるようにする。 ◇自分のためや学級のためという視点で、自分の考えを伝えようとしている。(思考・判断・表現)
	○所属したい「お役立ち係」を選ぶ。 ・自分がやりたい（できそうな）係はどれだろう。 ・クイズが好きだからクイズ係をやってみようかな。	◎どの児童も取り組みたい係に所属できるように、事前に希望を二つ聞いておく。 ○得意なことを生かしたり、新しいことに挑戦したりするように促し、係活動への関心が高まるようにする。 ●自分ができそうなことは何かを問い掛け、選択できるようにする。

(4) 短学活①の Google Jamboard を用いた交流の様子、短学活②の板書例



## 8 本時の活動

### (1) ねらい

係の一員として自分ができることを考え、決定するとともに、他の児童が決定した係活動の内容に対して、そのよさを認めたり応援したりすることができるようにする。

### (2) 準備

教師：教師用端末、お役立ちカード

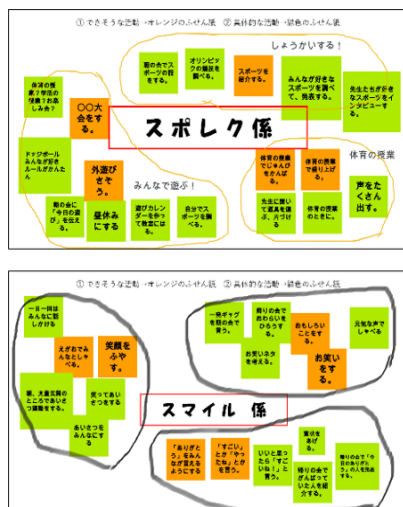
児童：1人1台端末

### (3) 活動の流れ

時間	○学習活動 [☆] ICT活用 ・予想される児童の意識	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ●努力を要する児童への支援 ◇評価
5分	○係の一員として自分にできそうな活動を考える。 ・自分にはどんなことができそうかな。 ・得意な○○をやってみよう。	◎「お役立ち」の視点を確認することで、学級に貢献できる活動を考えることができるようにする。 ○得意なことを生かしたり、新しいことに挑戦したりするなど、いろいろな理由があってよいことを伝え、自分が活動している姿をイメージできるようにする。 ●その児童のよさや得意なことを伝えることで、自分に取り組みそうな活動を見付けられるようにする。
	[めあて] ○○係の一員として、クラスのために「お役立ち」できることを決めよう。	
10分	○係ごとにできそうな活動を考える。 [☆] Google Jamboard ・新聞を作ってみようよ。 ・レクをして遊びたいな。 ・誕生日をお祝いする。 ・あいさつをたくさんする。 ・ものまねをして笑顔にしよう。	○教師が見取ったこれまでの児童たちの取組を紹介して継続を促したり、取り組んでほしい活動を伝えたりし、具体的な活動を考えるきっかけとなるようにする。 ●友達の「すごい」と感じることを思い出すように助言し、相手を認める気持ちが生まれるようにする。 ◎「有用感ナビ」の「ポジティブワード」を活用し、係活動の案を出していることを承認する。
10分	○考えた係活動の内容を基に、より具体的に取り組む方法を考える。 [☆] Google Jamboard ・その日のクラスのよいところを帰りの会で知らせるのはどうかな。 ・レクや簡単なゲームをしてみるのはどうかな。 ・朝の会で、楽しい話題を発表してみよう。	○「1日1回できること」の視点を与え、「いつ」「どんなことをするか」を考えさせることで、取り組む内容を具体的にイメージできるようにする。 ●自分が行動している姿を想像するように促し、具体的な活動に対して関心をもてるようにする。 ◎本時に向かう活動で考えた「楽しいクラス」につながる係活動になるかどうかを問い返し、学級のために貢献しようとする意識をもてるようにする。

	なを笑顔にしよう。 ・誕生日やがんばっている人にカードを送るのはどうかな。 ・登校や下校の時にハイタッチや握手をしてあいさつをしてみよう。	◎「有用感ナビ」の「グッドチョイス①（２、３）」を活用し、教師がこれまでに見取った児童のよさやがんばりが発揮された取組や、児童に取り組んで欲しい取組を伝えることで、具体的な活動内容を考えられるようにする。 ◇他の児童の意見や助言を受けて、学級のために自分ができることを考えている。（主体的態度）
20分	○係の一員として取り組みたい活動内容を決定し、お役立ちカードに記入する。 ・よし、～な活動に取り組んでみんなを楽しい気持ちにさせよう。 ・これなら自分にもできそう。 ・係の友達と協力して、がんばろう。 ○意思決定した係活動の内容について紹介し合う。	●Google Jamboard 上のカードを見ながら、できそうな活動内容を選ぶように助言する。 ◎他の児童と紹介し合った後に、応援のメッセージを伝え合う時間を設けることで、承認された実感を得られるようにする。 ○応援メッセージを受けた感想を発表させ、係の一員として役割を果たす意欲を高められるようにする。 ◎「有用感ナビ」の「グッドチョイス②（C、D）」を活用し、他の児童の意見を承認している児童を紹介することで、相手のよさに着目できるようにする。 ◇学級のために自分ができる活動を決定している。（思考・判断・表現）

#### (4) Google Jamboard を用いた交流の様子、板書計画



【めあて】  
〇〇係の一員として、クラスのために「お役立ち」できることを決めよう。

「お役立ち係」とは！  
1人1人が  
得意なこと  
好きなこと  
を  
生かせる係

みんなが  
楽しい  
気持ちに  
なれる係

・みんなのためにがんばりたい！  
・自分も楽しくなれるように。

【メッセージカード係】	【レク係】	【やったねハッピー係】
・たんじょう日をいわう。	・ありがとうをたくさん言う。	・休み時間に遊ぶ。
・パースデーソングを歌う。	・みんなを助ける。	・ゲームやレクをする。

【読み聞かせ係】	【新聞係】	【あいさつ係】	【スマイル係】
・国語の教科書を読む。	・インタビューをする。	・教室の入り口であいさつをする。	・笑顔で話しかける。
・みんなの好きな絵本を読む。	・クラスの出来事をのせる。	・大きな声であいさつする。	・お笑いをする。

## 9 実践する期間

### (1) ねらい

学級に貢献することの達成感やその姿を承認される実感を得ることができるようになるとともに、他の児童ががんばっている点やよい面に気づき、承認の思いを抱けるようにする。

### (2) 準備

教師：教師用端末、いいねカード（Google Jamboard）

児童：1人1台端末

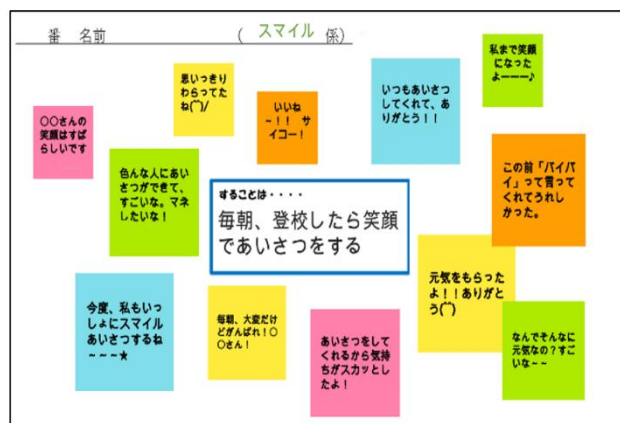
### (3) 活動の流れ

時間	○学習活動 [☆] ICT活用 ・予想される児童の意識	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ●努力を要する児童への支援 ◇評価
日常の学校生活	○本時の活動で意思決定したお役立ち係の活動内容を Google Jamboard 上に入力する。 ○本時の活動で意思決定した取組を実践する。 ・クラスの役に立つといいな。	◎「有用感ナビ」の「ポジティブワード」を活用して、実践している児童を承認することで、認められる心地よさを感じられるようにする。 ◎「有用感ナビ」の「グッドチョイス②（A、B）」を活用し、実践している児童に承認の言葉掛けをしたり、学級全体に紹介したりすることで、貢献したいという



活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスのためにがんばろう。</li> <li>・今度は～な工夫をしてみようかな。</li> <li>・みんなが楽しそう。</li> <li>・自分も楽しいな。</li> </ul>	<p>気持ちがより高まるようにする。</p> <p>●なかなか実践できない児童には、活動内容を一緒に見直すなど、個別に支援することで、自分にできる活動を見付けられるようにする。</p> <p>◇意思決定した係活動を実践している。(主体的態度)</p>
短学活	<p>○児童同士で「いいねカード」を送り合う。</p> <p>[☆] Google Jamboard</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達から褒められて嬉しいな。</li> <li>・もっとがんばりたいな。</li> <li>・自分にできることが他にもないかな。</li> <li>・～さんのいいところを発見できた。</li> <li>・友達にカードを送ったらすごく喜んでくれて、嬉しい。</li> <li>・友達のいいところを見付けよう。</li> </ul>	<p>◎カードを送り合う活動を通して、他の児童を承認する態度が身に付くようにするとともに、学級のために貢献できた実感を得ることができるようになる。</p> <p>◎「有用感ナビ」の「グッドチョイス②(C)」を活用し、よく書いている児童や他の児童のよさをより多く見付けている児童を紹介することで、相手を承認しようとする意欲を高めるとともに、承認する視点が広がるようにする。</p> <p>○同じ係の児童、隣の席の児童、前後の席の児童、～班の児童など、カードを送る相手を日替わりで変えることで、どの児童にもカードが届くようにする。</p> <p>●他の児童のカードを参考にするよう助言し、相手を認める表現に気付くようにする。</p> <p>◇肯定的な表現を用いて、他の児童を承認している。(思考・判断・表現)</p>

#### (4) 児童が Google Jamboard を用いて送り合う「いいねカード」



## 10 日常につなげる活動

### (1) ねらい

「お役立ち係」の取組を通して、自分ができるようになったことを振り返るとともに、これからの学級生活に生かしていきたいことを考えられるようにする。

### (2) 準備

教師：教師用端末、振り返りシート

児童：1人1台端末

### (3) 活動の流れ

時間	○学習活動 [☆] ICT活用 ・予想される児童の意識	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ●努力を要する児童への支援 ◇評価
5分	○「お役立ち係」の取組を思い出し、めあてを確認する。	◎「有用感ナビ」の「ポジティブワード」を活用し、教師が見取った児童の活躍や具体的な場面を伝え、どの児童も学級のために貢献できたことをおさえる。
[めあて]「お役立ち係」を振り返り、これからの学級生活に生かしていくことを考えよう。		

10分	<p>○「お役立ち係」の取組を通してがんばったことやできるようになったことを考える。</p> <p>[☆]Google Jamboard に蓄積された「いいねカード」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最後までやり遂げられた。</li> <li>・～ができて嬉しい。</li> <li>・クラスを楽しませることができた。</li> </ul>	<p>◎役に立てた喜びについて触れている児童を紹介することで、学級のために貢献する意義についての理解が深まるようにする。</p> <p>●教師が見取った児童のよさやがんばりを伝え、自分の取組を思い出せるようにする。</p> <p>◇これまでの実践を振り返る意義を理解している。(知識・技能)</p>
10分	<p>○他の児童と送り合った「いいねカード」を見返し、他の児童を認めたり、他の児童から認められたりしたときの気持ちを振り返る。</p> <p>[☆]Google Jamboard に蓄積された「いいねカード」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・～さん、本当にすごかったな。</li> <li>・みんな、がんばっていたな。</li> <li>・助けてもらえて、嬉しかった。</li> <li>・みんなありがとう。</li> </ul>	<p>○具体的な場面を思い出しながら書くように促し、相手と関わるよさを感じられるようにする。</p> <p>●もらって嬉しかったカードを選ぶように助言することで、承認されたことに気付けるようにする。</p> <p>◎「有用感ナビ」の「グッドチョイス② (A、B)」を活用し、カードを送り合って意欲的に取り組むようになったり、カードをもらって嬉しかったりしたことを書いている児童を紹介することで、学級のために貢献する大切さや承認される喜びに気付けるようにする。</p> <p>◇自分の変容や他の児童から承認されたことに着目しながら振り返っている。(思考・判断・表現)</p>
20分	<p>○クラスが更に楽しくなるために、これからがんばりたいことを考え、交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これから～係としてがんばろう。</li> <li>・次は～に挑戦してみたい。</li> <li>・みんながこれからやってみたいと思っている活動もすごいな。</li> </ul>	<p>○できるようになったことや自信をもてたことに着目させ、日常の学校生活に生かそうとする意欲をもてるようにする。</p> <p>◎交流の際に理由を問返すことで他の児童から認められたり学級に貢献したりしたことが、次の活動への意欲につながることを感じ取れるようにする。</p> <p>●これから生かしていきたいことを見付けられるように教師が見取った児童のよさやがんばりを伝える。</p> <p>◎「有用感ナビ」の「グッドチョイス② (C、D)」を活用し、これから取り組む係活動について、他の児童と伝え合ったり、そのよさについて応援し合ったりしている児童たちの様子を紹介することで、貢献や承認の思いを実感できるようにする。</p> <p>◇これからの集団活動や生活に生かしたいことを決定している。(主体的態度)</p>

(4) 板書計画

**【めあて】**

「お役立ち係」をふり返り、これからの学級生活に生かしていくことを考えよう。

できるようになったことは？ クラスの役に立てたことは？

・

・

「いいねカード」を送って、どうだった？

・

・

「いいねカード」をもらって、どうだった？

・

・

もっと楽しいクラスになるために！

あなたが、これからがんばることは？

・

・

・

はん

① キーワード→ピンク色のふせん紙 ② 係のアイデア→水色のふせん紙

**楽しいクラス**

① できそうな活動→オレンジ色のふせん紙    ② 具体的な活動→緑色のふせん紙

係

番 名前 ( 係 )

---

**いつ？何をする？**

↑「テキスト」を使って活動内容を入力しよう！



年 お役立ちカード



**目指せ！ 楽しいクラス！**  
～「お役立ち係」をやってみよう～



年 組 名前（ ）

わたしは、（ ）係）として

をします！

年 学活

## 目指せ！楽しい 年 組 ～「お役立ち係」をやってみよう～

年 組 番（ ）

★「できるようになったこと」や「みんなの役に立てたと思ったこと」を書きましょう。



A large, empty speech bubble shape for writing.

★みんなに「いいねカード」を送った感想を書きましょう。

A large, empty speech bubble shape for writing.



★みんなから「いいねカード」をもらった感想を書きましょう。



A large, empty speech bubble shape for writing.

★クラスがもっと楽しくなるために、がんばりたいことはなんですか？

A large, empty rectangular box for writing.

理由を書いてみよう

なぜなら、

A rectangular box for writing reasons, with an arrow pointing from the text "理由を書いてみよう" to it.



# 「お役立ち係」とは！

1人1人が

得意なこと  
好きなこと  
を  
生かせる係



みんなが

楽しい  
気持ちに  
なれる係

係

係

係

係

係

係



クラスが



もっと楽しく  
なるために!





# 学級活動編

高学年  
「学級カパワーアップ大作戦」

[学習指導案](#)

[デジタル教材\(背景画像\)](#)

[ワークシート](#)

[提示資料](#)

[目次に戻る](#)

# 学級活動学習指導案（高学年）

## 1 題材名 学級力パワーアップ大作戦 学級活動（3）イ

## 2 題材観

本題材は、学級活動「（3）一人一人のキャリア形成と自己実現」の内容「イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解」として計画した題材である。小学校学習指導要領解説特別活動編（平成29年7月）では、特別活動において育成すべき資質・能力の重要な視点として社会参画を挙げ、具体的には、「学級や学校のために友達と力を合わせて働くことの意義を理解し、工夫しながら自己の役割を果たすことができるようにすることが考えられる。」とある。そこで、学級生活の改善や向上のために自分ができることを計画し、実践する活動を通して、学級のために役に立つ喜びを実感でき、さらに、自分や学級のよさを生かそうとしたり、集団の一員としてできることに進んで取り組もうとしたりする意欲を高めることができると考え、本題材を設定した。

## 3 児童の実態及び指導方針 ～略～

## 4 研究との関わり

令和4年12月に、文部科学省により示された生徒指導提要（改訂版）では、生徒指導の実践上の視点として、自己存在感を感受できるような配慮が必要であることを示し、『「自分も一人の人間として大切にされている」という自己存在感を、児童生徒が実感することが大切』であることや「他者のために役立った、認められたという自己有用感を育むことも極めて重要」であることを述べている。

また、国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センターの生徒指導リーフ『「自尊感情」？それとも『自己有用感』？』（平成27年3月）では、「社会性の基礎となるもの『自己有用感』と述べ、集団活動の参加を通して、「進んで協力できた、自分から働きかけができた、誰かの役に立つことができた、という集団の一員としての自信や誇りの獲得が課題」であるとしている。

以上のことから、児童の自己有用感を高めるために、児童同士が主体的に関わり、互いのよさを認め合える場の工夫が重要であると言える。そこで、児童が「役に立った（貢献）」や「認められた（承認）」という実感を得られることを目指した教材「自己有用感グロウアップナビ（以下、有用感ナビ）」の作成と活用をする。

「有用感ナビ」は、日常の学校生活における児童への支援の方法を具体的に示した「教師の関わり方編」と児童同士の認め合い活動と相互評価の蓄積の工夫を取り入れた学級活動の指導例を示した「学級活動編」で構成している。

本題材は、学級や学校生活が向上するために、今の学級に足りないことを改善する方法や、学級のよさを更に伸ばしていく方法について話し合い、学級の一員として自分ができることを意思決定し、二週間の実践期間に取り組んでいく。これらの学習の中で、学級のために貢献している姿を認め合うことと、他の児童からの承認の思いを蓄積することを通して、児童の自己有用感が高まったかを検証するものである。

## 5 評価規準

### (1) よりよい生活を築くための知識・技能

- ・学級生活の充実のために主体的に参画することの意義やそのための話し合いの手順を理解している。

### (2) 集団や社会の形成者としての思考・判断・表現

- ・学級生活の充実と向上のために課題を考え、話し合い、自分の実践目標を意思決定している。

### (3) 主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度

- ・学級生活の改善と充実を図るために、多様な他者のよさを生かし、協働して実践しようとしている。
- ・これまでの自分を振り返ったりこれからの集団活動や生活に生かそうとしたりしている。

6 指導と評価の計画（本時に向かう活動→本時の活動→実践する期間→日常につなげる活動）

時間	●ねらい ○学習活動 [☆]: ICT活用	目指す児童の姿		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的態度
本時に向かう活動	(短学活①) ●作戦を実行する前の学級の実態について、自分なりに考えることができるようにする。 ○「学級パワーアンケート」に回答し、学級の実態を考える。	学級の課題やよさに気付いている。	学級生活とアンケートの質問を照らし合わせて考えている。	学級の課題やよさを考えようとしている。
	(短学活②) ●学級の実態を考え、学級の課題を改善したり学級のよさを向上させたりする意欲を高めることができるようにする。 ○レーダーチャート図を見て、学級の実態について、意見交流し、パワーアップ大作戦の必要性を知る。 ○生活班ごとに、どの学級力をパワーアップさせたいかについて話し合い、決定する。	学級を自分によりよくすることの大切さに気づき話し合う手順を理解している。	学級生活の改善と向上を目指して話し合っている。	学級生活の改善と向上を図るために多様な他者の考えを取り入れようとしている。
本時の活動	(学級活動の授業時間) ●学級の課題を改善したり学級のよさを向上させたりする方法に気づき、学級の一員として自分にできることを決めることができる。 ○パワーアップ大作戦を考える手掛かりをつかむ。 ○学級の課題を改善させたり、学級のよさを向上させたりするために、作戦のアイデアを出し合う。 ○より具体的な作戦の方法について意見を出し合う。 [☆] Google Jamboard ○自分にできそうな作戦を選び、具体的に実践する内容を考え、紹介し合う。	学級の課題を改善したり学級のよさを向上させたりすることの大切さを理解している。	学級の課題の改善や学級のよさを生かした作戦内容を考え、決定している。	学級の課題の改善や学級のよさの向上につながる作戦の内容を考えようとしている。
実践する期間	(日常の学校生活) ※2週間程度 ●学級に貢献することの達成感やその姿を承認された実感を得られるようにする。 ○本時の活動で意思決定した作戦に取り組む。  (短学活) ●他の児童のがんばっている点やよい面に気づき、承認の思いを抱けるようにする。 ○その日の実践を振り返り、自己評価をする。 ○児童同士で「いいねカード」を送り合う。 [☆] Google Jamboard	学級生活の改善や向上のために主体的に参画する意義を理解している。  他の児童を承認する視点に気付いている。	意思決定した実践目標に沿って活動をしている。  肯定的な表現を用いて他の児童を承認している。	自分の実践目標を達成しようとしている。  他の児童のよさやがんばる姿を見付けようとしている。
日常につなげる活動	(短学活) ○「学級パワーアンケート」を行い、作戦を実行した後の学級の実態を考える。			
	(学級活動の授業時間) ●できるようになったことを振り返り、今後の生活に生かしていこうとする態度が身に付くようにする。 ○2回目のアンケート結果を見て、感想を交流する。 ○「学級力パワーアップ大作戦」の活動を思い出したり、「いいねカード」を見返したりし、今後の生活で実践していきたいことを決める。 [☆] Google Jamboard	学級生活の充実のために実践してきたことを振り返る意義について理解している。	今後の学級生活の向上に向け、更なる課題や実践目標を見いだしている。	実践を振り返りこれからの集団活動や学校生活に生かそうとしている。

## 7 本時に向かう活動

### (1) ねらい

学級の実態を考えるとともに、学級の課題を改善したり学級のよさを向上させたりする意欲を高めることができるようにする。

### (2) 準備

教師：教師用端末、学級パワーアンケート（新潟大学附属新潟小学校 学級力取組グッズ「学級力アンケート」を基に研究協力校が作成したもの）、1回目のアンケート結果（レーダーチャート）

児童：1人1台端末

### (3) 活動の流れ

時間	○学習活動 [☆] I C T活用 ・予想される児童の意識	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ●努力を要する児童への支援 ◇評価
短学活 ①	○学級パワーアンケートに回答し、学級の実態を考える。 [☆] Google Forms ・新しい考えを出し合うクラスかな。 ・安心して過ごせるクラスかな。 ・きまりや約束を守るクラスかな。	○アンケートに回答することを通して、学級の実態を考えることができるようにする。 ●学級全体のことを考えるのが難しい児童には、自分と関わりが多い児童の様子について思い出してみるよう助言する。
短学活 ②	○レーダーチャートを見て、学級の実態について意見交流し、パワーアップ大作戦の必要性を知る。 ・授業で発言する人が多いから「発言パワー」が高いんだな。 ・友達に悪口を言っちゃうことがあったから「認め合いパワー」が低いのかも。 ・クラスのことが分かってきたぞ。 ・自分ができているからと言って、全員がそう思っているとは限らないのか。	○学級の実態をいくつかのパワーに分けて集計して得た結果を、レーダーチャートとして示すことで、視覚的に捉えられるようにする。 ○予想外の結果や自分の回答との相違点と共通点に着目させることで、児童個々の捉え方と学級の実態とにはずれがあることに気付かせ、パワーアップ大作戦を行う意義を感じられるようにする。 ●他の児童の意見を聞いて、どのように感じたかを問い掛けることで、学級の実態に関心をもてるようにする。 ◇学級の課題や学級のよさを見付けている。 (知識・技能)
	○生活班ごとに、どの学級力をパワーアップさせたいかを話し合い、決定する。 ・自分達が足りないパワーに挑戦するのはどうかな。 ・達成できているパワーを選ぶ方が取り組みやすいかもよ。 ・パワーアップ作戦をしやすいそうなのを選ぼうよ。 ・例えば、～な活動ができるかもしれないよ。	○どのような活動ができそうかを思い浮かべながら話し合うように助言し、これから行う作戦を自分の事として考えることができるようにする。 ◎「有用感ナビ」の「グッドチョイス②(B)」を活用し、自分の考えを具体的に伝え合っている班を全体に紹介することで、他の児童の考えを受け入れようとする態度が身に付くようにする。 ●発言に戸惑う児童には、他の児童の意見を聞いてどう思ったかを伝えてみるよう助言する。 ◇他の児童の考えを受け入れながら話し合っている。 (主体的態度)

### (4) 学級パワーアンケートの質問項目例（左）、アンケート結果を示したレーダーチャートの例（右）

**学級パワーアンケート**

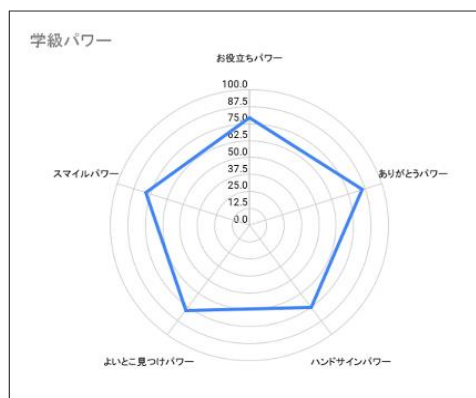
【ありがとうパワー】  
困っている人がいたら教え合ったり、助け合ったりしている学級だ。

【スマイルパワー】  
何でも話せる学級だ。

【よいとこ見つけパワー】  
お互いに「ありがとう」「がんばったね」が言える学級だ。

【ハンドサインパワー】  
友達の考えや意見を生かそうとする学級だ。

【お役立ちパワー】  
友達のためになることをしようとする学級だ。



## 8 本時の活動

### (1) ねらい

学級の課題を改善したり学級のよさを向上させたりする方法に気付き、学級の一員として自分にできることを決定できるようにする。

### (2) 準備

教師：教師用端末、1回目の学級パワーアンケートの結果（レーダーチャート）、作戦決定カード

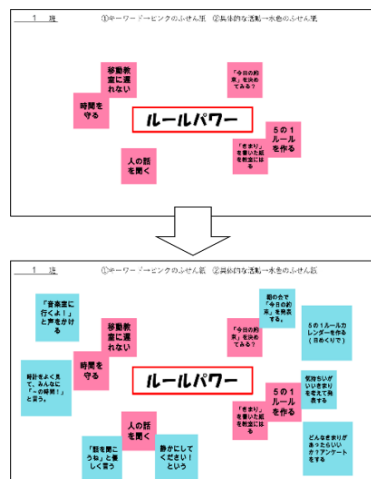
児童：1人1台端末

### (3) 活動の流れ

時間	○学習活動 [☆] ICT活用 ・予想される児童の意識	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ●努力を要する児童への支援 ◇評価
5分	○パワーアップ大作戦に取り組む学級について各班の発表を聞き、他の児童の考えを知る。 ・クラスがもっと仲よくなれるように「認め合いパワー」に取り組みたい。 ・クラスのよさをもっと伸ばすために「～パワー」に取り組みたい。 ・学級パワーがアップすれば、もっと仲よくなれる、新しいチャレンジをしたくなる、学校が楽しくなる・・・	○取り組む学級力を決めた理由を尋ねることで、児童の思いを学級全体で共有できるようにする。 ●これまでの学級生活の中で、困ったことや嬉しかった経験を思い出すよう促し、学級の課題やよさに目を向けられるようにする。 ◎学級力をパワーアップさせると、どのようなよいことがあるかを想像させることで、パワーアップ大作戦を行う意義を感じ、学級に貢献しようとする意欲が高まるようにする。 ◇学級の課題を改善したり学級のよさを向上させたりすることの大切さを理解している。（知識・技能）
	[めあて] 学級力をパワーアップさせる作戦を考えよう。	
8分	○学級の課題を改善させたり、学級のよさを向上させたりするためにできそうな作戦のアイデアを出し合う。 [☆] Google Jamboard ・みんなで仲よく遊ぶ。 ・約束やきまりを確認する。 ・やさしい言葉遣いをする。 ・発言した人を表彰する。 ・応援したり励ましたりする。	○アンケートの質問項目を示したり、普段の生活を思い出させたりすることで、学級の課題を改善する方法や学級のよさを向上させる方法に気付けるようにする。 ◎「有用感ナビ」の「グッドチョイス①（3、4）」を活用し、これまで教師がしていたことを試みるよう提案したり、教師がこれまでに見取った他の児童の参考になる姿を伝えたりすることで、作戦の内容を考えるきっかけになるようにする。 ●パワーアップするよさを感じられるように、作戦の具体例を示し、作戦後の自分を考えてみるよう促す。
12分	○作戦を実践する場面や方法について案を追加し、より具体的な作戦の内容を考える。 [☆] Google Jamboard ・休み時間に遊びに誘う。 ・約束やきまりを黒板に書く。 ・「今日のふわふわ言葉」を決めて朝の会で発表する。 ・友達を名前で呼ぶ。 ・1日○人以上、あいさつをする。 ・クラスの人を1日1回は応援する。 ・次の時間の授業の場所を知らせる。 ・給食やそうじの当番でなくても、自分から手伝う。	○Google Jamboard上で「いつ」「何をするのか」を付け足す活動を通して、より具体的な作戦の内容について話し合うことができるようにする。 ●どのような活動があるとアンケートの質問にある学級になるかを問い掛けることで、自分の意見をもてるようにする。 ◎「有用感ナビ」の「ポジティブワード」を活用し、具体的な作戦内容を考えている班を認めることで、自分の班のよさを感じられるようにする。 ◎他の班の話合いの様子（Google Jamboard上）を見て、感想を伝え合うことで、それぞれの作戦が学級のためになることを意識できるようにする。 ◇学級の課題の改善や学級のよさの向上につながる作戦を考えようとしている。（主体的態度）
20分	○自分が取り組む具体的な作戦内容を決め、作戦決定カードに記入する。	○Google Jamboard上のカードを参考にしながら、「いつ」「何をするのか」を思い浮かべさせることで、実践可

<ul style="list-style-type: none"> <li>・効果がありそうな活動にしよう。</li> <li>・この作戦なら自分にもできそう。</li> <li>・いつできるかな？だれにすればいいのかな？どんなことをしようかな？</li> </ul> <p>○意思決定した作戦内容を他の児童と紹介し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いいアイデアだね、すごいな。</li> <li>・賛成するよ。がんばってね。</li> <li>・これなら学級力がアップするね。</li> </ul>	<p>能な作戦を意思決定できるようにする。</p> <p>●自分が活動している姿を想像してみるよう助言し、実践可能な作戦を決められるようにする。</p> <p>◎他の児童の作戦を聞いた後に、応援のメッセージを伝え合う時間を設けることで、承認された実感を得られるようにする。</p> <p>◎「有用感ナビ」の「グッドチョイス②（C、D）」を活用し、他の児童を応援している様子を紹介することで、他者のよさを見付けようとする態度が身に付くようにする。</p> <p>◇学級力をパワーアップするための作戦を意思決定している。（思考・判断・表現）</p>
--	--

#### (4) Google Jamboard を用いた班での交流が変化する様子、板書計画



**【めあて】**

**学級力をパワーアップさせる作戦を考えよう。**

クラスの課題を減らそう！

クラスのよいところを生かそう！

➡

- ・学校が楽しくなる。
- ・今よりもっと仲よくなれる。
- ・新しいチャレンジをしたくなる。
- ・気持ちよく過ごせる。
- ・やる気が出てくる。

認め合いパワー	ルールパワー	学習パワー	発言パワー	助け合いパワー
<ul style="list-style-type: none"> <li>・1日に1回は「ありがとう」と言う。</li> <li>・1日に1回は「がんばれ」と応援する。</li> <li>・1日に1人以上の友達をほめる。</li> <li>・友達を必ず名前で呼ぶ。</li> <li>・児童玄関であいさつ運動をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・黒板に日替わりで今日のルールを書く。</li> <li>・大事にしたい約束をアンケートする。</li> <li>・移動教室の時に「音楽室に行くよ！」と声を掛ける。</li> <li>・「～の時間だよ、みんなに言う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主学習を紹介する。</li> <li>・帰りの会で宿題のポイントを言う。</li> <li>・1日1つ四字熟語を言う。（黒板に書く？）</li> <li>・授業で活躍していた人を表彰する。</li> <li>・朝の会で豆知識を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「〇〇さんに賛成」と発表する。</li> <li>・帰りの会で「今日の発言マン」を紹介する。</li> <li>・友達の発表をうなづきながら聞く。</li> <li>・賛成のハンドサインを出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休み時間に遊びに誘う。</li> <li>・みんなでレクをする。</li> <li>・1日1回はだれかを助ける。</li> <li>・「何か手伝おうか？」と声を掛ける。</li> <li>・給食当番を手伝う。</li> </ul>

## 9 実践する期間

### (1) ねらい

学級に貢献することの達成感やその姿を承認される実感を得ることができるようになるとともに、他の児童ががんばっている点やよい面に気づき、承認の思いを抱けるようにする。

### (2) 準備

教師：教師用端末、いいねカード（Google Jamboard）

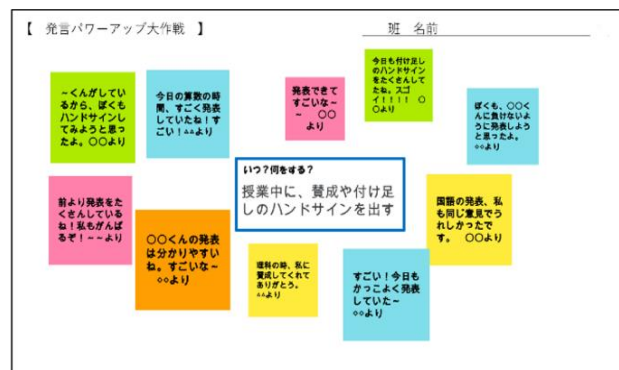
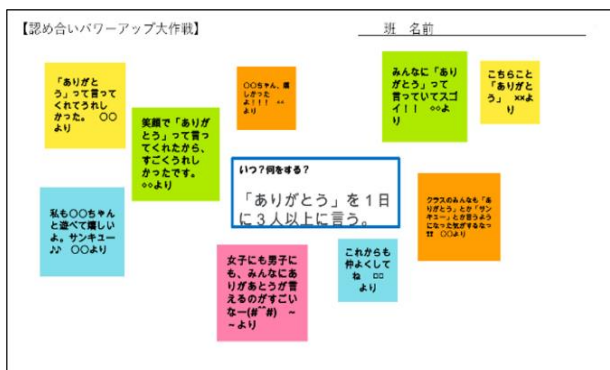
児童：1人1台端末

### (3) 活動の流れ

時間	○学習活動 [☆] ICT活用 ・予想される児童の意識	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ●努力を要する児童への支援 ◇評価
日常の学校生活	<p>○本時の活動で意思決定した作戦内容を「いいねカード」と「作戦遂行カード」に入力する。</p> <p>○本時の活動で意思決定した作戦を実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなのために役に立ちたい。</li> <li>・みんなのためにがんばろう。</li> <li>・学級力がパワーアップするといいな。</li> </ul>	<p>◎「有用感ナビ」の「ポジティブワード」を活用して、実践している児童を承認することで、認められる心地よさを感じられるようにする。</p> <p>◎「有用感ナビ」の「グッドチョイス②（A、B）」を活用し、作戦に取り組む児童に承認の言葉を掛けたり学級全体に紹介したりすることで、貢献したいという気持ちが高まるようにする。</p> <p>●なかなか実践できない児童には、作戦と一緒に見直すなど個別に支援し、自分にできることを見付けられるようにする。</p> <p>◇意思決定した学級力パワーアップ大作戦を実践している。（主体的態度）</p>
短学	○その日の実践を振り返り、自己評価をする。	◎カードを送り合う活動を通して、他の児童を承認する態度が身に付くようにするとともに、学級のために貢

活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日はがんばれて嬉しい。</li> <li>・あまり取り組みなかったな。</li> </ul> <p>○児童同士で「いいねカード」を送り合う。</p> <p>[☆] Google Jamboard</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達から応援されるとやる気がわく。</li> <li>・自分にできることが他にもないかな。</li> <li>・～さんのいいところを発見できた。</li> <li>・一生懸命な～さんは、すごいな。</li> <li>・カードを送ったら喜んでくれた。</li> <li>・友達のがんばりを見付けよう。</li> <li>・～さんに負けないように、がんばろう。</li> </ul>	<p>献できた実感を得ることができるようにする。</p> <p>◎「有用感ナビ」の「グッドチョイス② (C)」を活用し、よく書けている児童や他の児童のよさを多く見付けている児童を紹介することで、相手を承認しようとする意欲を高めることができるようにする。</p> <p>○隣の席の児童、同じ班の児童、違う班の児童など、カードを送る相手を日替わりで変え、どの児童にもカードが届くようにする。</p> <p>●他の児童のカードを参考にするよう助言し、相手を認める表現に気付けるようにする。</p> <p>◇肯定的な表現を用いて、他の児童を承認している。(思考・判断・表現)</p>
---	--	---

#### (4) 児童が Google Jamboard を用いて送り合う「いいねカード」



### 10 日常につなげる活動

#### (1) ねらい

「学級力パワーアップ大作戦」の活動を通してできるようになったことを振り返るとともに、これからの学校生活に生かしていきたいことを考えられるようにする。

#### (2) 準備

教師：教師用端末、2回目の学級パワーアンケートの結果（レーダーチャート）、振り返りシート

児童：1人1台端末

#### (3) 活動の流れ

時間	○学習活動 [☆] ICT活用	◎研究上の手立て ○指導上の留意点
	・予想される児童の意識	●努力を要する児童への支援 ◇評価
5分	<p>○事前に行った2回目のアンケート結果を見て、感想を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「助け合いパワー」がすごく上がって嬉しい。</li> <li>・みんなががんばったから学級力がパワーアップしたんだな。</li> </ul>	<p>○日常につなげる活動の前に、2回目の「学級パワーアンケート」を行い、1回目の結果と比較して提示することで、学級の変容を捉えられるようにする。</p> <p>◎一人一人の作戦の効果が学級力の変容につながっていることをおさえ、学級のために貢献できたことを実感できるようにする。</p> <p>●他の児童の感想を聞いてどのように思ったかを投げ掛けることで、自分の感想をもてるようにする。</p>
	<p>[めあて] 「学級力パワーアップ大作戦」を振り返り、これからの学級生活や自分のために生かしていきたいことを考えよう。</p>	
10分	<p>○「パワーアップ大作戦」の活動を通して、できるようになったことや学級のために役に立てたことを考える。</p> <p>[☆] Google Jamboard に蓄積された「いいねカード」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスのために役に立てた。</li> </ul>	<p>◎役に立てた喜びについて触れている児童を紹介することで、貢献する意義の理解が深まるようにする。</p> <p>●教師が見取った児童のよさやがんばりを伝え、自分の取組を思い出せるようにする。</p> <p>◇これまでの実践を振り返る意義を理解している。(知識・技能)</p>



	・前は～だったけれど、今は～できるようになった。	
10分	<p>○他の児童と送り合った「いいねカード」を見返し、他の児童を認めたり、他の児童から認められたりしたときの気持ちを振り返る。</p> <p>[☆] Google Jamboard に蓄積された「いいねカード」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんな一生懸命がんばっていた。</li> <li>・～さん、みんなの役に立てていたな。</li> <li>・みんなの作戦のおかげで、自分も～するようになった。</li> <li>・「いいね」を言われると嬉しくなって、もっとがんばりたくなった。</li> </ul>	<p>○具体的な場面を思い出して書くように促し、相手と関わることのよさや大切さを感じられるようにする。</p> <p>●もらって嬉しかったカードを選ぶように助言することで、承認されたことに気付けるようにする。</p> <p>◎「有用感ナビ」の「グッドチョイス②（A、B）」を活用し、カードを送り合うことで作戦を意欲的に実践できたと書いている児童を紹介し、貢献できた実感を得られるようにする。また、カードをもらって嬉しい気持ちになったと書いている児童を紹介し、承認された実感を得られるようにする。</p> <p>◇自分の変容や他の児童から承認されたことに着目しながら振り返っている。（思考・判断・表現）</p>
20分	<p>○学級力を更にパワーアップさせるために、これから取り組みたいことを考え、交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今取り組んでいる作戦をこれからも続けていきたい。</li> <li>・今度は「～パワー」をアップさせるために、～していきたい。</li> <li>・自分は「～パワー」に自信があるから、それを生かして～していきたい。</li> </ul>	<p>○できるようになったことや自信をもてたことに着目させ、日常の学校生活に生かそうとする意欲をもてるようにする。</p> <p>◎交流の際に、取り組む内容を決めた理由を問い返すことで、他者から認められたり学級に貢献したりしたことが、次の活動への意欲につながることを感じ取れるようにする。</p> <p>●これから生かしていきたいことを見付けられるように教師が見取った児童のよさやがんばりを伝える。</p> <p>◎「有用感ナビ」の「グッドチョイス②（C、D）」を活用し、これから取り組む作戦について、他の児童と紹介合ったり、応援や助言をし合ったりしている児童の様子を紹介することで、貢献や承認の思いを実感できるようにする。</p> <p>◇これからの集団活動や生活に生かしたいことを決定している。（主体的態度）</p>

(4) 板書計画

**【めあて】 「学級力パワーアップ大作戦」をふり返り、これからの学級生活や自分のために生かしていきたいことを考えよう。**

できるようになったことは？ クラスの役に立てたことは？

・

・

「いいねカード」を送って、どうだった？

・

・

「いいねカード」をもらって、どうだった？

・

・

学級力をもっと  
パワーアップ  
させるために！

あなたが、これから取り組みたいことは？

・

・

・

・

班

①キーワード→ピンク色のふせん紙 ②具体的な活動→水色のふせん紙

パワー

**いつ？何をする？**

↑「テキスト」を使って「作戦」ですることを入力しよう

年 学活 作戦決定カード



# 学級力パワーアップ大作戦！

年 組 名前（ ）



わたしは、（ パワー）を上げるために、

年 学活

# 学級力パワーアップ大作戦

～【パワー】をアップさせよう～

年 組 番 ( )

★「できるようになったこと」や「みんなの役に立てた」と思ったことを書きましょう。



A large, empty speech bubble shape for writing.

★みんなに「いいねカード」を送った感想を書きましょう。

A large, empty speech bubble shape for writing.



★みんなから「いいねカード」をもらった感想を書きましょう。



A large, empty speech bubble shape for writing.

★クラスの学級力をもっとアップさせるために、どんなことに取り組みたいですか？

A large, empty rectangular box for writing.

理由を書いてみよう

なぜなら、

A rectangular box for writing reasons.



パワー

パワー

パワー

パワー



パワー

パワー



学級力を  
もっと  
パワーアップ  
させるために！